

私がハリーポッターを初めて読んだのは、
今から十五年ほど前になります。発売当時
「児童文学」「ファンタジー」というくくり
で紹介されていたため敬遠していましたが、
読み始めると大人でも楽しめる物語で、夢中
になって読み進めていました。宣伝通りの
「大人も楽しめるファンタジー」でしたが、
その意味は、子どもの楽しみ方・大人の楽し
み方、そのどちらもができる物語だったので
す。事実、第一巻である「賢者の石」を私が
初めて読んだのは大学生の時ですが、その後
何度も読み返すたびに、それまでは気付かな
った登場人物の気持ちに気付いたり、あまり
気にしていなかった人物に感情移入したりし
ています。私は今、四〇歳を超えましたが、
第一巻から読み返すと、主人公ハリーの親友
であるロンの両親（アーサー・ウィーズリー
とモリー・ウィーズリー）の気持ちがとても
よくわかるようになりました。

このように、読み返す度に新たな面白さを

発見できるのがハリーポッターシリーズの素
晴らしいところだと感じています。その中で
も特に印象深い場面として挙げられるのが、
第一巻「賢者の石」で主人公ハリーとその親
友ロンが、ハーマイオニーという一人の女の
子を、トロールから助ける場面です。
それまで、ハリーとロンは、ハーマイオニ
ーのことをあまり好きではありませんでし
た。ハーマイオニーは勉強熱心で成績優秀の
仕切りたがり屋、学校の規則はどんなことが
あっても絶対に守らないといけないという頭
の固い面もあります。ハリーとロンは、その
正反対の考え方をするタイプ。それゆえに、
互いによく衝突していました。ある日、三人
が通うホグワーツ魔法魔術学校の中で、巨大
な怪物トロールが暴れ出すという事件が起き
ます。全校生徒が、それぞれの寮に避難しま
すが、「ハーマイオニーがトイレに行ってい
て避難していない」ということにハリーとロ
ンが気付きます。避難するようにという先生

の指示を無視して、同級生を助けに行くハリ
ーとロン。トロールに襲われているハーマイ
オニーを見つけると、それまでに習った数少
ない魔法の呪文や、とっさのアイデアを駆使
してトロールを倒すことに成功しました。ト
ロールを倒すという大冒険を経て、ハリー、
ロン、ハーマイオニーの三人に友情が芽生え
ます。トロールを倒す時にハリーとロンが使
った魔法は、優等生であるハーマイオニーが
使う魔法に比べれば拙いものでした。それで
も、トロールを見て驚きと恐怖で固まってし
まったハーマイオニーは、ハリーとロンの勇
気と行動力を認め賞賛します。ハリーとロン
は、自分たちの勉強不足を実感し、ハーマイ
オニーの熱心さを見習うようになります。こ
の事件があつたからこそ、どんな困難にも力
を合わせて立ち向かい、互いに刺激し合いな
がら成長していく関係ができたということだ
す。ハリー達の住む魔法界では、闇の魔法使
いの復活により恐ろしい時代を迎えますが、

この三人の成長がその危機を救い、世界に平和をもたらすことになります。ここでの出会いがあつたからこそ、ハリー達三人が素晴らしい魔法使いに成長し、世界を救うことができたのです。

ハリーポッターの物語では、「愛」が一つの大きなテーマになっています。それは、友情であつたり、家族への愛だつたり、生き物への愛だつたり、広い意味での「愛」です。ハリー・ロン・ハーマイオニーの三人は、友情という強い「愛」で結ばれています。相手を信頼すること、互いの気持ちを伝え合い理解すること等、その積み重ねがあつたからこそ三人の友情はずつと続いていきます。気持ちのすれ違いから衝突することも何度かあります。しかし、何かのきっかけで互いに思っていたことを伝え合い、相手の気持ちを理解して仲直りをします。「けんかするほど仲がいい」という言葉を耳にすることがあります。が、それは互いの意見や考えを出し合つて衝

突すること、互いの気持ちを知ることができ
きるから仲良くなるのだらうと思います。ハ
リー達三人も、そのような関係ができたから
こそ、三人で一緒にいることが心地よく、安
心してけんかもできるのではないでしょう
か。

三人の友情を感じる場面は他にもたくさん
ありますが、その最初であるトロールを倒す
場面を読むことで、これから起こる様々な冒
険に思いを馳せ、ワクワクしながらハリーの
物語を読み進めることができます。そして、
ハリー・ロン・ハーマイオニーのように、気
のおける仲間がそばにいることが、人生にお
いて大切なことだと改めて感じることができ
ました。